

平成22年度共同研究の概要(成果報告書抜粋)

研究種別: 若手奨励研究

研究代表者: 片野 洋平 (鳥取大学 農学部生物資源環境学科・助教)

研究協力者:

研究題目(和文):

乾燥地において社会関係資本が環境行動与える影響について

研究概要(和文):

近年、社会科学の領域では、Social Capital(社会関係資本、以下 SC)が社会の効率化や生産性に対して与える影響についての研究が盛んに行われている。この概念によれば、人々の信頼、協調性、人付き合いなど社会的資質の蓄積が多い集団のほうが、そうでない集団よりも、社会の効率化や生産性に与える影響が大きい、という知見を導くことが可能となる。H22年度は、乾燥地研究において使用するための方法論上の課題、すなわち、SC 研究において使用する Social Network Analysis(社会ネットワーク、以下、SNA)の最新の手法の獲得に取り組んできた。SNA では、人々の関係性を数値化することにより、家族関係、友人関係、婚姻関係などの人々のつながり、情報の伝播、革新技術の広まりなど、人々の行動を構造的な形で把握することが可能となる。具体的には、社会科学の技法を社会に応用させるための研究会であるICPSR の夏期集中講義に参加することにより、Social Network Analysis の分析手法を獲得した。次年度以降は、この Social Network Analysis の技法を用いて、モンゴル地域における家畜放牧従事者や農業従事者を対象に、人々の SC の蓄積が、乾燥地化の進行に与える影響を明らかにすることを目指す。